

市民から親しまれる「学園通り」を歩行者専用空間にしては

Q 福江松山線や京町線、県道富士見町線が整備・拡幅され、道路事情が格段に改善されつつある中、狭隘で道路渋滞が頻発する「学園通り」は、一部の公共交通機関を除いて通行禁止とし、歩行者専用スペースとしてはどうか。

A 沿線に商店や一般住宅が立地していることから、一般車両を排除することは難しいと考えます。

「学園通り」については、富士見町線や京町線の整備が完了し、交通機能の確保が図られた後には、自転車や歩行者に配慮した道路形態とするため、当路線の断面構成を見直し、歩道を拡幅し、車道幅員を狭くするなど、安心安全な道路整備を行い、文教地区にふさわしい環境整備を図りたいと考えています。
(市長)



大学誘致に向けて近隣大学の意向調査を

Q 大学誘致により、どのようなメリットが考えられるのか。

A 大学の立地により、アパート等の住宅需要、飲食や娯楽等の消費需要が生み出され、地域経済の拡大に伴う税収の増加が期待できます。また、交流人口の増加により本市の活性化が図られると考えています。
(総務部長)

Q 大学誘致に向けて、近隣大学の学部の移転や新設等の聞き取り調査を行っているのか。

A 現在のところ、学部の移転や新設等の聞き取り調査は実施していませんが、本市にとっては、大学誘致に伴う財政負担などの課題がある一方、様々なメリットがあると考えています。まずは、先進地の事例を研究するとともに、坂出市就職フェアや企業訪問バスツアーなどの機会をとらえて、学校関係者等からの情報収集に努めていきます。
(総務部長)

質問の主な項目
・ 福江松山線道路改良事業の予定
・ コンパクトシティーへの取り組み
・ 新県立体育館の建設誘致

若い世代をターゲットとした人口減少対策を

Q 社会動態においては、若い世代が進学等に伴い、市外に流出していることが人口減少の主な要因と考えられるが、将来人口目標(※)の達成に向けた今後の具体的な取り組みは。

A 大学進学時や就職時における市外への転出超過が、本市の人口減少の一因となっていることから、Uターン就職などでより多くの方々にとふるさと坂出に戻って来ていただくために、企業誘致や産業振興による雇用の場の確保をはじめ、生活環境・住環境の整備、市内の特色のある4つの高等学校や香川大学との連携、協力の推進、ふるさと坂出を誇りに思う教育の充実など、様々な取り組みを着実に推進していきます。
(市長)
※10月に策定した「坂出市人口ビジョン」で2060年の将来人口を42,000人としています。

質問の主な項目
・ 新年度予算の編成方針
・ 農業委員会制度の改革
・ 遊休農地等の解消に向けた取り組み

IT技術を駆使したより効果的な鳥獣被害対策に取り組んでは

Q 県内ではイノシシによる被害が頻繁に報道されているが、香川県では情報通信技術を活用した先進的な捕獲システムを導入している。本市の今後の対応は。

A IT技術を導入して遠隔地から「わな」の扉を操作することで、1度に複数頭のイノシシを捕獲できる「囲いわな」を、香川県が事業主体となり、今年度から設置する予定です。本市もモデル地区として参加する意向ですが、「囲いわな」の場合、ある程度の広さの確保と十分な餌付けを行うなどの時間を要するために、周辺住民の協力等が必要となります。

本市としては、今後も、県及び有害鳥獣対策実施隊等と協議や連携を図りながら、有害鳥獣等の効果的かつ効果的な捕獲に努めていきます。
(建設経済部長)

